

運動療法
臨床報告 2月度
【胸郭可動性】

結果例: 著効◎、有効○、やや有効△、
無効▲、悪化×

患者	日付	運動内容	効果	施術詳細
YSさん 女性89	1月31日	胸郭モビライゼーション	○	施術前と後、座位・立位で両側の上肢挙上を比較したところいずれも10°ほど改善が見られた。
	2月7日	〃	△	前回と同様に施術を行ったが前回ほどの効果は見られず。ご本人の身体、動作性の軽減は自覚された。
	14日	〃	△	施術前の状態で既に初回の挙上位置を上回っている。前回施術のに関連は不明。今回施術前後の比較はあまり無い。
	21日	〃	○	施術前後で、上肢挙上の角度が改善。(約10°)
	28日	〃	△	施術後の上肢挙上で、座位での角度改善がはっきりと確認できたが、立位はあまり変化が見られず。体幹の伸展は頸部も含め改善している。
OHさん 女性80	1日	胸郭モビライゼーション	○	臥床位の状態で万歳姿勢をしていただき施術後と比較したところ、10°ほど肩関節屈曲改善があり、自覚も「軽い」との事。
	8日	〃	△	前回同様の施術で対応しましたが、他覚的には変化が見られず。自覚は「軽くなった」との事。
	15日	〃	▲	他覚的、自覚的にもあまり変化がありません。下肢の運動療法を行う時の姿勢は改善されているため、現状では限界なのか検討が必要と思います。
	22日	〃	—	右上肢に打撲痛があり、施術後の検証が困難なため胸郭のモビライゼーションは行ったが効果は不明。
NHさん 女性90	8日	胸郭モビライゼーション	△	施術後の上肢挙上と体幹伸展が若干の改善。
	15日		—	下肢の違和感を訴えられ、下肢を重視して施術を行ったため肋骨固有の施術は見送る。
	22日	胸郭モビライゼーション	△	やはり施術後の体幹伸展と上肢挙上の改善は見られた。

運動療法・【胸郭可動性】まとめ

今回は、運動療法の【胸郭可動性】という課題に取り組み、円背の方を中心にして取り組みました。
確認目安としては、施術前後での「体幹の伸展状態」と「上肢の挙上運動」を主なポイントとして検証しました。

結果として、施術により改善が見られたと言えるのは3名中2名でした。変化があまり見られなかった1名は、本人の自覚では「楽に動作ができるようになった」と言う事でしたが、他覚的にはそれが感じられませんでした。拘縮が角度の制限を起こしていた、あるいは私の施術では拘縮の改善まで至らなかった可能性があります。他の施術方法と効率的に組み合わせることで改善可能かどうか今後の課題としたいと思います。

変化が見られた2名は、施術後の座位、立位のいずれでも姿勢の改善ががあり、また上肢挙上では10°ほど改善がありました。しかし次回の施術時にはまた元に戻っている状態が多く、定着には時間の積み重ねが必要と思います。